



川上村役場

新庁舎及び交流防災センターのご案内



令和5年4月

川上村新庁舎及び交流防災センターのご案内

川上村を特徴づける風土をイメージした内装デザインで、
村民の皆様が愛着のもてる空間づくりを目指しました。

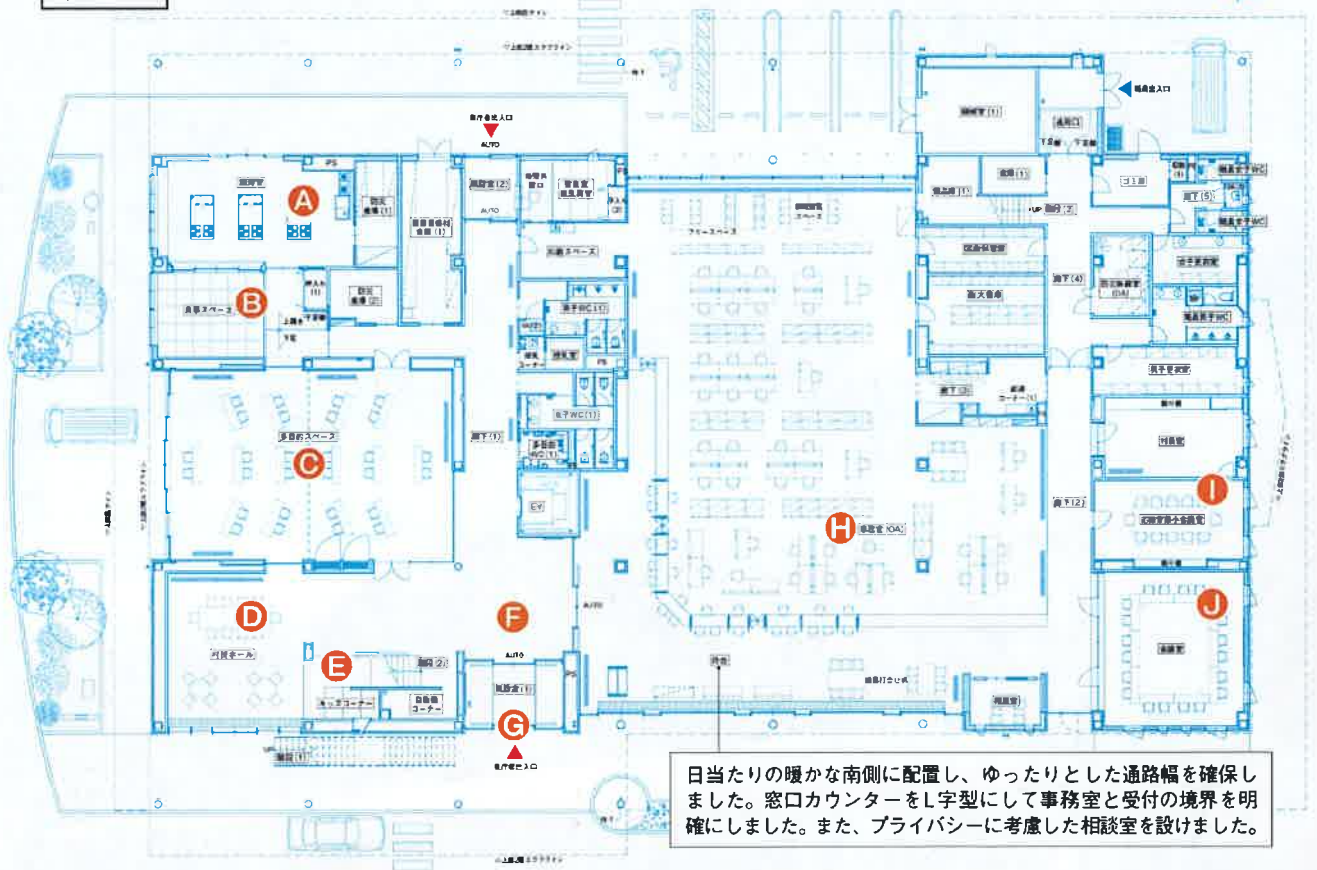
脱炭素社会へ向けた環境にやさしい施設

- 地中熱利用により空調負荷を軽減
- 底やテラスによる日射のコントロール
- 建物の高断熱化（一部外断熱、高断熱サッシ、Low-Eガラス）
- 全熱交換器により効率的な熱交換と換気を両立
- 照明は全館で効率の高いLEDを採用
- 太陽光発電パネル＋蓄電池で高効率な発電

災害に強い施設

- 災害対応・避難スペースへ利用形態の転換
- 施設単独で3日間機能可能な備蓄と設備
- 土砂・浸水被害に備え、主要な設備機器を2階に設置
- 建物の構造体は通常の耐震安全性の1.5倍を確保し鉄骨軸ブレースを採用
- 北側の軒下と調理室による炊き出し対応

1階 平面図



1F



① 調理室



② 食事スペース



③ 多目的スペース



④ 村民ホール



⑤ キッズコーナー

2F



K 大会議室



L 宙テラス

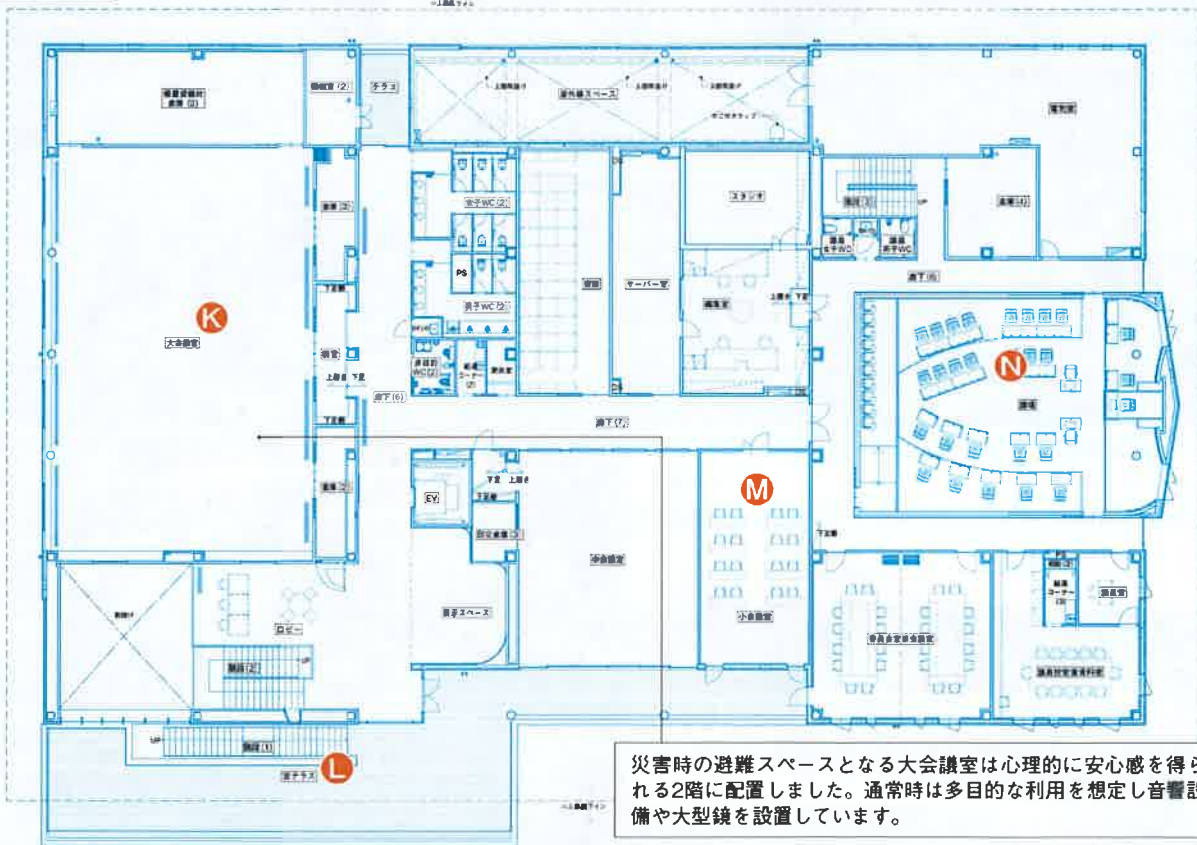


M 小会議室



N 議場

2階 平面図



E エントランス



E 来庁者出入口



S 事務室



I 応接室兼小会議室



O 会議室

村長ごあいさつ



川上村新庁舎及び交流防災センターの落成式にあたり、ごあいさつ申し上げます。

旧庁舎は、昭和49年に中央公民館が建設され、そこに併設する形で昭和54年に役場庁舎が建設されておりました。いずれも旧耐震適用基準に基づいた建物であったわけですが、現在の耐震基準に照らし合わせても十分ではない状態であり、建設からかなりの年数が経過する中で施設・設備の老朽化も顕著に現れ、建物の機能としては、多くの課題を抱えた状況でありました。

また、平成28年4月に発生した熊本地震の際に、災害対策本部として機能しなければならない庁舎が損壊し、機能不全に陥った事例を踏まえ、川上村においても、南海トラフ地震、首都直下型地震などの大規模な自然災害の発生に備えなければならない中、旧庁舎では被災後の災害対策の司令塔を担うべき役場機能が脆弱であると判断し、防災機能を兼ね備えた新庁舎等建設事業に取り組んでまいりました。

この新庁舎等建設にあたって、村民にとって満足度の高いサービスの提供、時代に応じた行政課題に対応できる機能的な施設とし、日常的に村民が気軽に集い、交流することができる公民館機能を併設しました。また、災害時には素早く防災拠点に転換し、最大で200名の避難者の受け入れが可能となる施設となっております。

なお、環境配慮型施設とすべく、高効率型省エネルギー機器、太陽光発電、地中熱利用設備等を設置し、二酸化炭素排出抑制に寄与するものいたしました。

新庁舎等建設にあたり、格別のご理解とご協力をいただきました村民の方々をはじめとした関係者の皆様、さらには、高度な技術力と安全な施工にご尽力いただいた設計管理・施工業者の皆様に敬意と心からの感謝を申し上げ、私のごあいさつとさせていただきます。

長野県川上村長 山井 明彦

事業費	単位:千円
建設事業費	1,776,500
地中熱工事費	141,900
設計管理費	97,900
地質調査費	5,368
	2,021,668

財源内訳	単位:千円
環境省補助金(20%補助率)	289,475
公共施設債	716,300
緊急防災・減債事業債	425,500
辺地対策事業債	134,200
庁舎建設基金	407,945
森林環境譲与税基金	48,073
一般財源	175
	2,021,668

施設概要



所在地：長野県南佐久郡川上村大字大深山525
 構造：鉄骨構造
 建築面積：2156.11㎡
 延床面積：3412.07㎡
 階数：地上2階建て
 軒高：11.628m
 最高高さ：12.518m
 設計管理者：株式会社 エーシーエ設計
 工事請負者
 【本体】：新津・畑八・黒澤特定建設工事共同企業体
 【地中熱設備】：株式会社 角藤



〒384-1405 長野県南佐久郡川上村大字大深山525

TEL: 0267-97-2121 FAX: 0267-97-2125 <http://www.vill.kawakami.nagano.jp>

発行：川上村役場総務課